

(様式1)

## 令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立小梅小学校
校長名	増淵 裕美

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度の目標に掲げていた「社会科の平均正答率を目標値よりも5ポイント以上上回るようにする」については、第4～6学年の3観点全てにおいて5ポイント以上上回るという結果となり、1年間の研究の取組や学習の成果が表れる結果となった。</li><li>・第2～6学年までの全51観点中48観点において、全国平均を上回った。日頃の授業に加え、学力向上タイムや放課後学習、家庭学習での取組の成果と考えられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・理科においては、課題が見られる。問題データベース等で基礎的な知識の定着を図るとともに、主体的に学習に取り組む態度の向上を図り授業改善を行う必要がある。</li><li>・さらなる学力向上を目指すには、B層の割合が多いため、B層の児童をA層に引き上げる必要がある。</li><li>・どの学年、教科にも16%前後のD層の児童がいる。D層の児童をC層に上げる指導の工夫が必要である。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。」の設問については、どの学年も全国平均より上回っており、学級や家庭でのやり直しの習慣が身に付いていると考えられる。</li><li>・「授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。」の設問については、高学年になるにつれ肯定率が上がっており自主学習等の成果が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「土日や祝日など、学校が休みの日は、1日にどれくらい勉強をしていますか。」の設問については、第3学年～第6学年で、全くしないと答えている児童が20%前後おり、休みの日に家庭学習の習慣がない児童がいる。</li><li>・高学年に比べ、低学年の方が学級の規範意識や学級の絆の標準スコアが低い傾向にある。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力・学習状況調査結果を見ると、国語科「書くこと」領域においては、全国平均正答率より10.6ポイント高い結果となった。</li><li>・全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、「調べる場面」でタブレット端末を「ほぼ毎日使用している」割合が全国より52.2ポイント高く、自分の考えをまとめ、発表する場面等で、タブレット端末を効果的に活用する傾向が高い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力・学習状況調査結果を見ると国語、算数共に全ての領域、観点において全国平均正答率を上回っているが、国語の「読むこと」領域において、資料から必要な情報を読み取ることが不十分なため正答率が低い傾向が見られた。</li><li>・算数では、計算間違い等のケアレスミスをしてしまい、失点することがある。ワークテストでも、図や途中式を書いたり、見直したりする習慣が必要である。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 校内研究でのさらなる指導力向上と授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善および指導力向上を目指す。

#### 【具体的な取組】

- ・ふりかえりシート、問題データベース等を活用し、知識・技能の確実な定着を図る。
- ・児童の興味関心を高める教材開発や主体的に取り組める学習課題の設定を行う。
- ・自力解決の前に考える視点を提示する等、個に応じた重点的な指導を行う。
- ・一人一人の良さや可能性を引出すような学び合いを大切にしたい指導計画を立てる。

### (2) 基礎基本の確実な定着

- ①「小梅スタンダード7」(改訂版)で、学習規律の維持徹底を図る。
- ②学力向上タイム(週2～3回)では、国語・算数だけでなく、理科や社会科、情報活用能力に関する内容にも計画的に取り組む。5～6年生においては、「新聞記事を活用した教材」に取り組み、実用的な文章から必要な情報を読み取る機会を増やす。
- ③プリント、小テスト、単元テスト等において、決められた時間内に正確に解く練習を積み重ね、見直しの習慣化を図ることにより、ケアレスミスや無解答を減らす。
- ④理科の学力向上を目指し、ふりかえりシート、ミライシード、問題データベース等で習熟を図るとともに、「指導のポイント」を共通理解し、指導に生かす。
- ⑤各教科の正答率が低く誤答が多い単元・領域は下学年にも伝え、くり返し学習し定着を図る。
- ⑥校長講話作文の取組により、話の内容を適切に捉え、さらに自分の経験や考えをまとめる練習の積み重ねをする。

### (3) 学力向上委員会の組織的な取組

- ・月1回、学力向上委員会を開き、学力向上に向けた取組の確認を行う。
- ・学力向上委員会で墨田区学習状況調査の分析を行い、正答率が低かった単元、分野について共通理解を図り、授業改善に生かす。
- ・D、E層児童の、後期放課後学習教室への参加を促し、C層への引き上げを図る。
- ・ふりかえりシートやミライシード、理科問題データベースに重点的に取り組む。
- ・3月、4月には、墨田区学習状況調査、全国学力・学習状況調査の過去問に2回以上取り組む。

## 3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・各教科B層からA層への引き上げを目指す。A層の児童が5%増加することを目指す。
- ・各教科の記述問題の無解答率を10%以下に減らす。
- ・令和5年度 墨田区学習状況調査では、4～6年生の理科の全観点における平均正答率が目標値よりも5ポイント以上上回るようにする。